

2022年度教育学科 教育課程編成・実施の方針に照らした

学修への取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用して検証を行った。当学科の教育課程編成・実施の方針は以下の通りである（<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html>）

「問題解決型学習（PBL）や協同学習を積極的に活用し学士力向上をめざしていく科目を配置するのはもちろんのこと、保育士や教員としての情熱や責任感を育み、乳幼児・児童・生徒を理解し一人ひとりの気持ちによりそった対応ができるようになるうえで必要な、保育系・教育系・特別支援教育系の講義・演習・実習などを中心に配置しています。さらに、東北福祉大学のこれまでの実績をいかして、福祉系科目や心理学系科目等も幅広く学び、乳幼児・児童・生徒をさまざまな面から支援する方法を総合的に理解できるカリキュラムになっています。」

「学びの姿勢（教育課程編成・実施の方針）」の結果

- 各学年の回答者数は、1年生が181名（72%）、2年生が96名（38%）、3年生が118名（47%）、4年生が86名（34%）であった。
- 3項目中、いずれの学年も「段階的に学修を進めるための取り組み」、「学士力向上への取り組み」の得点が高く、「幅広い学修に基づく子ども支援法のための学び」が、これらよりやや低い傾向を示した。得点は、いずれも5点（“そう思う”）近傍であり、最高点の6点には達しないが、概ね良好な状態にあるものと考えられる。
- 学年間の特徴は、3項目すべてで4年生が最高値を示し、4年間の学びの結果として1～3年生より高得点を示した可能性が考えられる。3項目中、「幅広い学修に基づく子ども支援法のための学び」において、学年毎に得点が増加する傾向が認められ、講義から演習・実習のカリキュラムの進行、および、福祉系や心理系などの学びを経験した結果が得点に反映した可能性が考えられた。

